

禁鯉の宮（きんりのみや）

絹村の高椅（たかはし）に、高椅神社という古い神社があります。

平安時代につくられた「延喜式」（えんぎしき）という書物に記されているので、10世紀のはじめころにはすでにこの地にあったこととなります。

祭神はイワガムツカリノミコトといって、ヤマトタケルノミコトが東国の平定に下ったとき、ヤマトタケルたちが召し上がる「お料理の係」として、付きしたがって来たとされています。

むかしむかし、この神社の境内（けいだい）の井戸を掘ったときに、地中から大きなコイが飛び出しました。そこで、神主の持田兵部大輔は、はるばる京都に上り、このふしぎなできごとを申し上げて、そのコイを天皇に奉りました。天皇はたいへんお喜びになり、持田兵部大輔は天皇から「日本一社禁鯉の宮」と書いた勅額（ちよくがく）をたまわりました。

それからは、大きなコイが現れた井戸は神泉として、一般の人々が水を汲むことを禁じ、また、神社付近のコイは神様の使いとして、捕らえて食べるものがなくなりました。

あるとき、火事で神社が焼けそうになったとき、そばを流れる田川にコイの大群が現れ、いっせいに水を吹きかけたので、神社もご神体も無事だったということがありました。

今日でも高椅から梁（やな）にかけて、コイを捕る人はなく、網や釣り針にかかっても逃がしてやることになっているそうです。



小山市郷土文化研究会編著「小山の伝説」（平成4年 第一法規）より抜粋



本校児童にも馴染みの深い高椅神社
現在、県指定文化財の楼門は、修復のため覆われています。